

## I. 研修について

リウマチ科では、関節リウマチやそれ以外の膠原病(全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎、血管炎症候群など)を主に診療している。これらのリウマチ・膠原病では多くの臓器にわたって病変が見られるのが特徴である。他の専門科と連携しながらその診療に携わることで色々な臓器の障害に対応する能力が養われるとともに、患者の全身を管理する能力が培われる。また、不明熱などの症例に対し、問診や身体所見を取り、検査計画を立てて診断に至る能力も養われる。限られた初期研修の期間にこのような見識を身に付けることは医師として貴重な経験となる。また、リウマチ・膠原病では多彩な臓器病変が見られるため、将来どの科の専門医になったとしてもその診療に関わる可能性があり、初期研修中にその全体像について理解することは極めて有意義である。これらを踏まえ、当科の初期研修では、1)患者の全身を診る Generalist として幅広い視点を身に付けること、2)将来どの科の Specialist となってもリウマチ・膠原病の徴候を見逃さないようにすること、を目標としている。

## II. 研修の到達目標

1. 一般臨床医として必要な、リウマチ・膠原病の基本的な診断、治療などの臨床能力を修得する。
2. リウマチ・膠原病の診療を経験することにより、その診療に必要な基本的知識を修得し、またその多臓器にわたる多彩な症候に対応する能力を修得し、さらにその過程を通じて患者の全身を見渡す幅広い見識を養う。
3. 多様な症候を呈するリウマチ・膠原病の診療を経験することにより、日常診療で遭遇する様々な疾患や病態に適切に対応でき、一般臨床医としてプライマリ・ケアに必要とされる内科の基本的知識と検査・診療手技を身に付ける。
4. 不明熱などの臓器特異的でない症状を呈する症例に対し、問診ならびに身体所見を取り、それに応じた検査計画を立てて診断に至る技術を身に付ける。
5. 慢性疾患患者の健康状態を管理し、患者の生活指導ならびに社会復帰指導ができる能力を養う。

## III. 医師数[うち臨床研修指導医数] (平成 29 年 3 月現在)

・常勤医師 3 名 [1 名]

## IV. 学会認定医・専門医・指導医 (平成 29 年 3 月現在)

日本内科学会認定内科医(2 名)・総合内科専門医(1 名)・指導医(1 名)

日本リウマチ学会リウマチ専門医(2 名)・リウマチ指導医(1 名)

日本リウマチ財団リウマチ登録医(1 名)

日本プライマリ・ケア連合学会認定医(1 名)・指導医(1 名)

## V. 施設認定

日本リウマチ学会認定教育施設

日本内科学会認定教育施設